

自ら学ぶ力をはぐくむ学校図書館 —図書館連携教育を通して—

安城市立祥南小学校 小林 広美
安城市立丈山小学校 杉浦 恵梨子

1 はじめに

グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代。自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り開いていく力が求められる。そのような社会の要請を受け、平成31年2月には、「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」が発表された。ここでは、「未来へつなぐ、いつも本のある暮らし」を基本理念とし、基本目標1は「学校図書館を計画的に活用し、調査・研究や探究活動を行うなど、子どもの自主的、自発的な学習や言語活動の充実に向けた活動を推進します。」とうたわれている。つまり、学校全体として、学校図書館を活用した調査活動・探究活動を通して、児童が自ら進んで学ぶ環境づくりが求められている。また、基本目標2では地域と学校等の連携として、「学校等に対し、市町村立図書館と連携してネットワーク化を進め、図書を共有化できるように促します。」とされている。このように、今、学校図書館の役割の重要性と地域の図書館との連携の必要性が改めて認められ、学校図書館を活用し、論理的な思考、言語に関する能力を高め、児童の思考力・判断力・表現力を育成することが求められている。

安城市では、平成26年から学校司書の配置が始まり、現在では市内の小中学校29校全てに一名ずつ配置されている。さらに、市内の公共図書館（安城市図書情報館）による学校図書館連携事業で、図書館教育に関する環境が整備されてきている。

しかし、児童の実態は、図書資料をもとに自分の意見を構成することに苦手意識をもっている児童が多い。また、調べ学習の様子を見ていると、必要な本を見つけることができなかったり、何となく手に取った本をばらばらとめくったりする姿が見られた。これらから、図書資料の活用能力が十分身に付いているとは言えない。そこで、司書教諭、担任、学校司書が連携をして学校図書館を活用した学習活動を行ったり、地域の図書館と連携して、環境を整えたりすることで、主体的な学びをより一層進めることができると考えた。

2 研究のねらい

（1）目指す子ども像

課題解決に向けて必要な情報を活用し、自ら学ぶことのできる児童

（2）研究の仮説

十分な図書資料を利用できる環境を整え、情報を活用するための支援を教師や学校司書が連携して行えば、児童の情報活用の力や、自ら学ぶ力を高めることができるだろう。

(3) 研究の手立て

<手立て1> 図書館整備において、「調べ学習に役立つ本」などのコーナー作りや、調べ学習に役立つ掲示、資料を提示する。

<手立て2> 各教科及び総合的な学習の時間において、計画的に地域の図書館と連携し図書資料を集めたり、学校司書と連携し図書資料を教室に配架したりする。

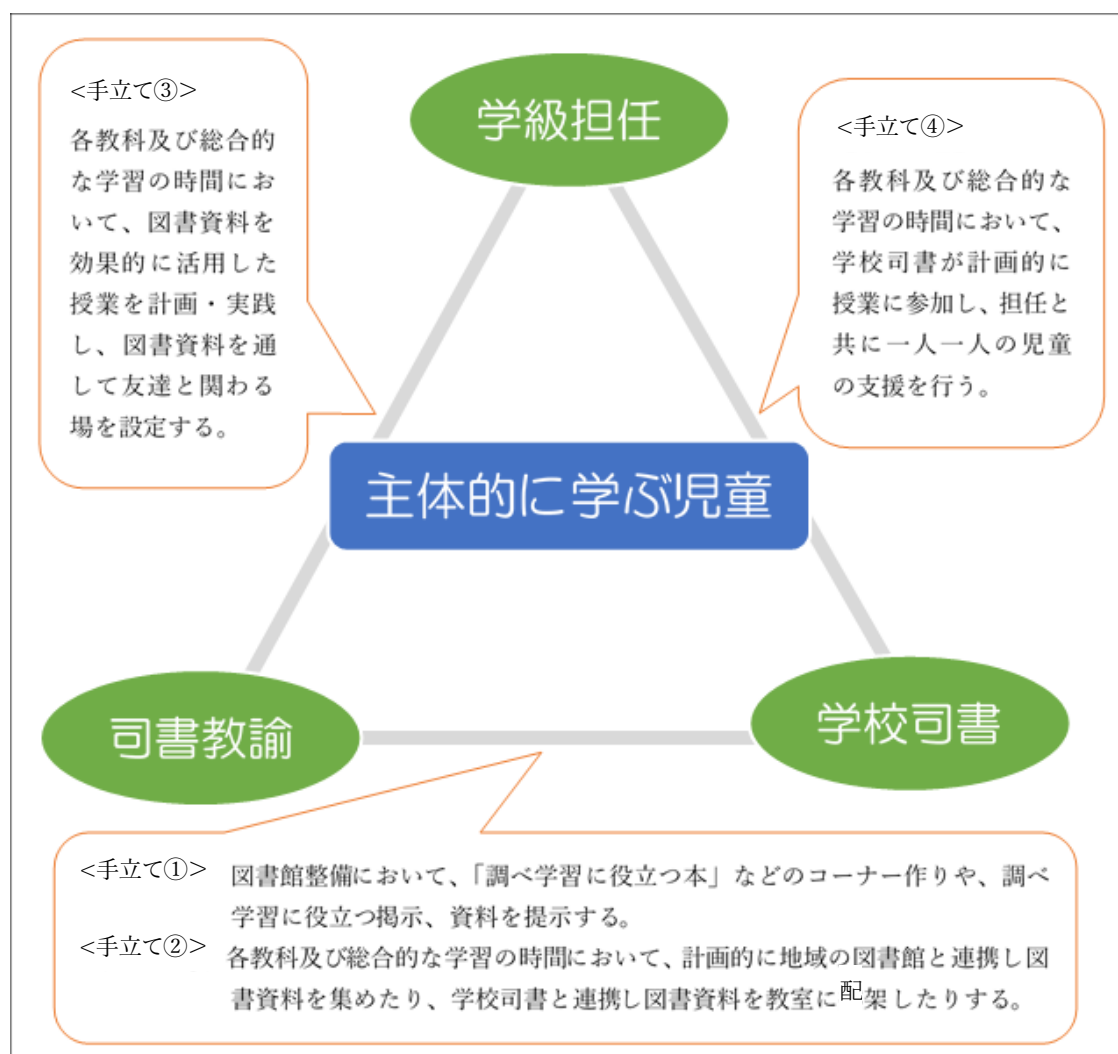
<手立て3> 各教科及び総合的な学習の時間において、図書資料を効果的に活用した授業を計画・実践し、図書資料を通して友達と関わる場を設定する。

<手立て4> 各教科及び総合的な学習の時間において、学校司書が計画的に授業に参加し、担任と共に一人一人の児童の支援を行う。

3 研究の内容

(1) 研究の構想（杉浦教諭作成）

学校では、司書教諭、学級担任、学校司書が以下のように連携し、教育活動を行うことで、児童の自ら学ぶ力を育むと考えた。この連携して行う教育活動を「図書館連携教育」とする。以下、連携教育の実践を基に、検証していく。



(2) 実践と考察

ア 図書館の整備＜手立て1＞

地域の公共図書館である安城市図書館では、NDCに囚われない独自の排架を行っている。関連するジャンルをまとめることで自然に広範囲な情報に触れることができる工夫がされている。

そこから、学校図書館でも総合的な学習で使用する米に関する本を集めたコーナーを作った。その際、本の表紙に内容を記載したポップを貼り、内容が一目で分かるようにした。【資料1】また、調べ学習やまとめる際に確認したい、基礎的な内容をまとめ、図書館内に掲示した。【資料2】

米に関する本のコーナーを設置したことで、関連した本が一つにまとまり、米作りだけでなく、米の歴史や米を使った料理など、米に関する様々な本を一度に見ることができるようになった。また、掲示があることで、年に数回の図書館利用指導だけでなく、調べたいとき、まとめたいときにいつでも調べ方やまとめ方が確認できるようになった。

イ 図書資料の収集と排架＜手立て2＞

学校図書館の学習センターとしての機能の基本は、学習に必要な資料が十分にそろっていることである。そこで、各学年の教科及び総合的な学習の時間において、今までに活用された資料を調査し、本校の学校図書館にある資料の冊数を明記した一覧表（【資料3】の下部）を作成した。これにより、次の効果が期待できる。

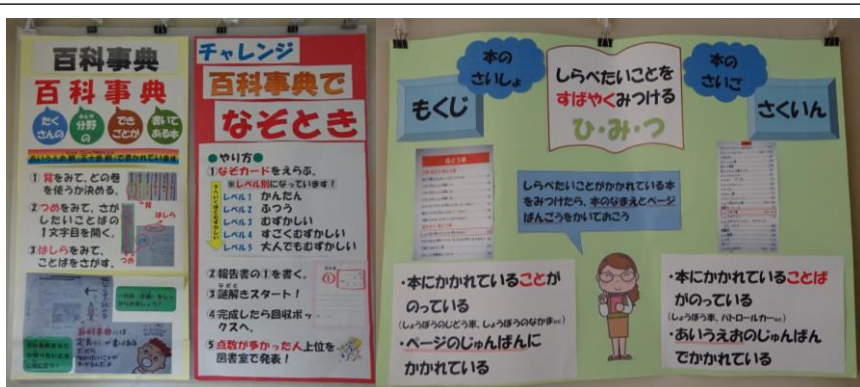
- ・学校司書にとっては、揃える図書や不足している図書が明確につかめる。また、図書館に資料を予約する際の一次資料として活用できる。
- ・学級担任にとっては、今までどの単元で資料が使われていたか、すぐに揃う資料が何冊あるのか把握できる。

ウ オリエンテーション・ブックトークを利用した図書館の計画的活用＜手立て3＞

年に一度、オリエンテーションとして学校図書館利用指導を行っている。（【資料3】の上部）利用指導における専門的な部分においては、学校司書が適宜説明に入れるように、内容を見直して作成した。特に、情報活用能力の育成が系統的に行われるように学年ごとに指導したい内容を精選した。



【資料1】テーマによる排架と委員会で作成したポップ



【資料2】調べ学習に関する基礎的な内容をまとめた掲示物

図書館学習ノート・図書館資料・学校司書を活用した年間計画

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
図書館学習ノートと司書の活用	オリエンテーション(4月) ・本のあつかい方 (p 4) ・おはなしをききましょう (p 1) ・えほんのへやの使い方 ・読み聞かせ ブックトーク(6月) ・おすすめの本 10さつ	オリエンテーション(4月) ・とよのかんのきまり (p 1) ・本のあつかい方 (p 2, 3) ・おすすめの本 10冊 ブックトーク(6月) ・生きものの本 (生活科) ・おすすめの本 10さつ	オリエンテーション(4月) ・本のならび方 (p 1~3) ・分類についての紙芝居とお話 ブックトーク(6月) ・おすすめの本 10さつ	オリエンテーション(4月) ・NDCのしくみ (p 1~3) ・百科事典 (p 6) ブックトーク(6月) ・伝記 (p 12)	オリエンテーション(4月) ・図書の各部の役割 (p 9, 10) ・いろいろな資料を活用しよう (p 4) ・新聞の見出し (p 7) ブックトーク(6月) ・おすすめの本 10さつ	オリエンテーション(4月) ・豊かな読書生活 (p 1) ・資料のいろいろな探し方 (p 5) ・資料のまとめ方 (p 8, 9) ブックトーク(6月) ・新笑南言 (p 3, 4)
安城西部小資料一覧	国語科 乗り物 (約42冊) 昔話 (約50冊) 生活科 ・昔の遊び (約20冊)	国語科 民話 (約75冊) 動くおもちゃ (約37冊) 動物 (約71冊) 生活科 ・夏野菜 (約18冊)	国語科 冒険犬 (約20冊) 落語絵本 (約5冊) 社会科 昔の道具 (約29冊)	国語科 ことわざ (約15冊) 百人一首 (約6冊) くらしの中の和洋 (約20冊) 社会科 いろいろな果 (約40冊) 水、川 (約20冊) 明治用水 (約5冊) 総合的な学習の時間 エコ・環境 (約20冊)	国語科 竹取物語 (約5冊) 手塚治虫 (約10冊) 社会科 情報、テレビ (約7冊) 食糧問題 (約12冊) 総合的な学習の時間 米作り (約20冊) もちつき (約5冊) 米全般 (約40冊)	社会科 戦国武将 (約20冊) 政治 (約14冊) 世界情勢 (約45冊) 貴族のくらし (約10冊) 元寇 (約10冊) 明治維新 (約12冊) 戦時中のくらし (約20冊) 家庭科 年中行事 (約3冊) 朝ごはん (約7冊) 総合的な学習の時間 職業 (約70冊) 福祉 (約30冊) 行事 修学旅行 (約10冊)

※他に、「いのち」に関する本 20冊、七夕に関する本 5冊 あります。

【資料3】図書館学習ノート・図書館資料・学校司書を活用した年間計画 (筆者作成)

エ 年間計画の配付<手立て2>

各教科のどの単元で図書資料が効果的に活用できるのかを担任が把握することが、図書館利用指導には必要だと考える。そこで、図書資料の依頼があった単元にラインマーカーで印をつけておき、各学年主任と相談の上、年間計画表から、図書資料を用意してほしいと思う単元に丸を付けて、学校司書に提出するという形で行った。【資料4】の手書き部分) これにより、図書情報館へ資料を依頼したり、学校司書が授業支援を行ったりする回数が増えた。(図書資料依頼回数: 昨年度 56 回⇒今年度 67 回、学校司書による授業支援回数: 昨年度 97 回⇒今年度 102 回)

オ 学級担任と学校司書の連携<手立て4>

学級担任のほとんどは、学校図書館を授業で活用することは大切だと考えているが、実際には計画的に活用できていないのが実情である。そこで、調べ学習支援をスムーズに行うためのチェックシートを作成した。

年間計画表 (4年生)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1. 国語科「おはなしのきき方」	2. 国語科「本のあつかい方」	3. 国語科「本のあつかい方」	4. 国語科「本のあつかい方」	5. 国語科「本のあつかい方」	6. 国語科「本のあつかい方」	210
7. 国語科「本のあつかい方」	8. 国語科「本のあつかい方」	9. 国語科「本のあつかい方」	10. 国語科「本のあつかい方」	11. 国語科「本のあつかい方」	12. 国語科「本のあつかい方」	35
13. 国語科「本のあつかい方」	14. 国語科「本のあつかい方」	15. 国語科「本のあつかい方」	16. 国語科「本のあつかい方」	17. 国語科「本のあつかい方」	18. 国語科「本のあつかい方」	90
19. 国語科「本のあつかい方」	20. 国語科「本のあつかい方」	21. 国語科「本のあつかい方」	22. 国語科「本のあつかい方」	23. 国語科「本のあつかい方」	24. 国語科「本のあつかい方」	175
25. 国語科「本のあつかい方」	26. 国語科「本のあつかい方」	27. 国語科「本のあつかい方」	28. 国語科「本のあつかい方」	29. 国語科「本のあつかい方」	30. 国語科「本のあつかい方」	105
31. 国語科「本のあつかい方」	32. 国語科「本のあつかい方」	33. 国語科「本のあつかい方」	34. 国語科「本のあつかい方」	35. 国語科「本のあつかい方」	36. 国語科「本のあつかい方」	60
37. 国語科「本のあつかい方」	38. 国語科「本のあつかい方」	39. 国語科「本のあつかい方」	40. 国語科「本のあつかい方」	41. 国語科「本のあつかい方」	42. 国語科「本のあつかい方」	60
43. 国語科「本のあつかい方」	44. 国語科「本のあつかい方」	45. 国語科「本のあつかい方」	46. 国語科「本のあつかい方」	47. 国語科「本のあつかい方」	48. 国語科「本のあつかい方」	101
49. 国語科「本のあつかい方」	50. 国語科「本のあつかい方」	51. 国語科「本のあつかい方」	52. 国語科「本のあつかい方」	53. 国語科「本のあつかい方」	54. 国語科「本のあつかい方」	4
55. 国語科「本のあつかい方」	56. 国語科「本のあつかい方」	57. 国語科「本のあつかい方」	58. 国語科「本のあつかい方」	59. 国語科「本のあつかい方」	60. 国語科「本のあつかい方」	15
61. 国語科「本のあつかい方」	62. 国語科「本のあつかい方」	63. 国語科「本のあつかい方」	64. 国語科「本のあつかい方」	65. 国語科「本のあつかい方」	66. 国語科「本のあつかい方」	35
67. 国語科「本のあつかい方」	68. 国語科「本のあつかい方」	69. 国語科「本のあつかい方」	70. 国語科「本のあつかい方」	71. 国語科「本のあつかい方」	72. 国語科「本のあつかい方」	55
73. 国語科「本のあつかい方」	74. 国語科「本のあつかい方」	75. 国語科「本のあつかい方」	76. 国語科「本のあつかい方」	77. 国語科「本のあつかい方」	78. 国語科「本のあつかい方」	35
79. 国語科「本のあつかい方」	80. 国語科「本のあつかい方」	81. 国語科「本のあつかい方」	82. 国語科「本のあつかい方」	83. 国語科「本のあつかい方」	84. 国語科「本のあつかい方」	35
85. 国語科「本のあつかい方」	86. 国語科「本のあつかい方」	87. 国語科「本のあつかい方」	88. 国語科「本のあつかい方」	89. 国語科「本のあつかい方」	90. 国語科「本のあつかい方」	35
91. 国語科「本のあつかい方」	92. 国語科「本のあつかい方」	93. 国語科「本のあつかい方」	94. 国語科「本のあつかい方」	95. 国語科「本のあつかい方」	96. 国語科「本のあつかい方」	35
97. 国語科「本のあつかい方」	98. 国語科「本のあつかい方」	99. 国語科「本のあつかい方」	100. 国語科「本のあつかい方」	101. 国語科「本のあつかい方」	102. 国語科「本のあつかい方」	35

2学期中に、できれば早くおねがいします
右下の欄、おねがいします
(手書き)

【資料4】学習年間計画表を活用した図書資料の依頼

【資料5】これは、国際子ども図書館が発行する冊子『国際子ども図書館調査研究シリーズ』の中で、授業者と図書館専門職員がどのように打ち合わせを進めていったらよいか、項目ごとの作業内容が具体的に書かれていたものを、チェックリスト化し、より短時間で打ち合わせができるようにしたものである。このチェックリストを活用し、学校司書と学級担任の打ち合わせを経て、学校司書が選書や図書情報館の配送サービスを利用して本を用意した。

調べ学習支援サービス ()年 ()組 担任の先生()		
番号	やること	メモ
1	授業者との打ち合わせ ☐ 教科書や学習指導案などをもとにしたキーワードはありませんか。 ☐ どんなことを授業する予定ですか。 ☐ 授業の最後に子どもたちがどんなことを分かってほしいですか。 ☐ 当日の授業に参加してもいいですか。	どこで？ ☐ ファクトーク ☐ 調べ方 ☐ 調べ学習の個別支援 ☐ 話し合い ☐ まとめ方
2	図書館の授業用資料リスト案の作成と資料の収集 ☐ 図書情報館の集団貸し出しを利用しますか。 ☐ 学校にある本だと〇冊程度用意できます。	
3	授業用リストの検討と確定 ☐ リストを見て、新たにこんな本が欲しい、というのがありますか。 ☐ 図書情報館からの本は〇月〇日に学校まで到着します。	
4	授業準備 ☐ 関係しそうなページに付箋を貼っておきました。 ☐ ファクトークに載せて、教室の前の廊下に置いておきます。	
5	授業の実施と授業現場での支援 ☐ 調べ学習は1つ行いますか。支援に入らせてもらってもいいですか。	
6	事後処理と振り返り・評価 ☐ 授業で使われてみて、役に立った本があれば教えてください。	

【参考】国際子ども図書館『国際子ども図書館調査研究シリーズ第2号』p48, 49

【資料5】調べ学習支援チェックシート（杉浦作成）

カ 授業内容に沿った図書資料の活用＜手立て3＞

単元前に担任と学校司書が打ち合わせを行うことで、授業内容にも沿い、さらに児童の課題解決欲求を高める選書が可能になり、より効果的に資料を活用した授業ができるようになった。また、打ち合わせを通して学校司書も授業のイメージを明確にもてるようになり、新聞記事の切り抜きなどの補助的な資料の提供にもつながった。

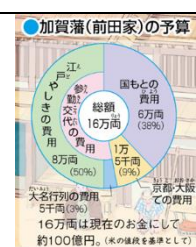
6年生社会科「江戸幕府と政治の安定」の単元では、参勤交代、身分制度、キリスト教の禁止のそれぞれについて図書資料で調べる時間を取ったり、教科書を基にそれぞれの政策について整理する時間をとったりした。そして最後に、学び合いに向けて、自分の意見をまとめる時間を取った。図書資料も授業の内容を踏まえたものなので、3つの政策がそれぞれ詳しく載っている資料が多かった。集計を行うと、30名中24名が配架した図書資料を使って自分の意見をまとめたことが分かった。学び合いの中では、児童Aは次

段階	担任	主な内容	学校司書
単元前	●単元の概要 〈子どもに学ばせたい内容・子どもの姿〉 ●図書資料を活用して行いたいこと ⇒江戸幕府が幕府を安定させようと様々な政策を行ったことを知らせたい。 ⇒語り合いをしたい。 ⇒発言の根拠として資料が欲しい。	プリントを活用した打ち合わせ ↓	●プリントを基に聞き取りをしながら、授業内容を把握 ⇒学校にある図書資料の案内 ⇒図書情報館との連携 ⇒選書リストの作成 ⇒図書情報館からの配送本を教室に配架
単元中	●語り合いのテーマの提示 ●教室に配架された資料を活用する時間の確保  ●図書資料を活用した語り合いの設定 ●効果的だった資料の聞き取り	【導入】 江戸幕府と徳川家光のエピソード 【本論①】 参勤交代〈図書資料〉 【本論②】 身分制度〈図書資料〉 【本論③】 キリスト教の禁止・弾圧〈図書資料〉 【語り合い】 江戸幕府にとって最も重要な政策は何だろうか	●授業支援 ●図書資料の案内  ●図書情報館へ図書資料の返却 ●学校予算で購入する図書の検討
単元後		プリントを活用した打ち合わせ	

【資料6】担任と学校司書 職務分担一覧

のように発言している。【資料7】

資料集の55ページをみてください。加賀藩の予算が書いてあります。これを見ると、江戸屋敷の費用が50%で8万両。グラフの下に、16万両は現在のお金にして約100億円と書かれているので、その半分だから50億円。大名行列の費用が5千両だから約3億円。合わせて53億円になります。このことから、お金をたくさん使わせて、反抗を防ごうとしていたことが分かりました。



【資料7】児童Aの発言

キ 図書資料を有効に活用した学び合い<手立て3>

以下に、学び合いの授業の発問と、図書資料の冊数を一覧にしたもの【資料8】を示す。

記号	語り合いのテーマ	冊数(準備)	冊数(使用)
a	縄文時代と弥生時代、タイムスリップするならどちらに行きたいか。	32	3
b	奈良の大仏、人々は進んで働いたのか。	25	27
c	百舌鳥・古市古墳群、世界遺産として本当におすすめできるのか。	31	3 ※他に新聞を使用
d	元寇、北条時宗が元の使者を切り捨てたのは本当に正しかったのか。	42	30
e	三英傑、戦国時代を代表する人物は誰か。	42	31

【資料8】学び合いの授業の発問と図書資料の冊数

学校司書と連携し、図書情報館からの配送便を活用して、授業内容に合った資料を用意した結果、多くの資料が学び合いに活用された。

次に、学び合いの授業に行った、児童へのアンケート結果を示す。【資料9】

番号	理由	人数
a	学び合いが楽しかった。	13
b	本がたくさんあった。本で調べるのが楽しかった。	10
c	好きな時代だった。	7
d	ノートまとめが楽しかった。	6
e	気になるテーマだった。	5
f	人数が同じくらいに分かれていた。	3
g	その他	2

【資料9】一番楽しかった授業の理由

a, b から、本などの図書資料を活用することで、より自分の考えに自信をもち、意欲的に学び合いができるのだと考えられる。アンケートの自由記述からは、以下のような回答も得られた。【資料10】

- ・たくさん調べる時間があった、よく分かりました。
- ・この授業が一番はっきりした意見をもつことができました。司書さんに協力してもらい、はっきりした意見を発言できました。
- ・それぞれいいところがあるけれど、どれも学び合いでそれがどう影響するのかを考えるのが楽しかったし、たくさん調べることがあったので面白かったです。
- ・いろいろな本があったので、みんなで楽しくやれました。

【資料10】なぜその授業を選んだかの理由についての自由記述

図書資料が学び合いを深め、自ら学ぶ力を高める条件

- ① 学校司書、司書教諭、学級担任がスムーズに連携できるシステムをつくる。
- ② 児童の課題解決に合った図書資料を豊富に用意する。
- ③ 毎時間、図書資料を活用して、自分の意見をまとめる時間を計画的に設定する。

4 研究のまとめ

(1) 成果

ア 手立て1について

図書館の整備を行ったことで、図書館内で利用指導をしているときに、振り返って掲示を確認したり、掲示を見るために移動したりする姿が見られるようになった。【資料11】授業でよく使用するテーマについては、コーナーを作ってまとめたことで、誰にでも分かりやすい排架となり、授業だけでなく、休み時間にも個人で調べに来る児童も出てくるようになった。また、4月当初に取ったアンケートで、図書館で何をしますかの問いに、調べ物をするという児童が3名だったのに対して、12月末のアンケートでは7名になっていることから、学校図書館が少しずつその学習・情報センターとしての機能を備えつつあることが分かる。



【資料11】掲示を振り返って確認する児童

イ 手立て3について

司書教諭が中心となって、4月当初にオリエンテーションを計画的に運営することで、学校司書を活用した授業の良さについて学級担任に知ってもらう機会になると同時に、図書館利用指導を系統立てて行うことができるようになった。また、考えを形成する際、図書資料を活用する機会を継続して設けてきたことが、自分の考えに自信をもち、意欲的に学び合いに参加する児童の姿につながったと考える。

ウ 手立て2、手立て4について

図書資料を教室にも配架し、いつでも手に取ることができる環境、そして調べ学習支援チェックリストを使って、授業内容に沿った図書資料を提供することで、より授業のねらいに沿った図書資料をそろえることができるようになった。また、短い時間でも学級担任と学校司書が打ち合わせをすることで、【資料10】にもあるように、「司書さんに協力してもらって、はっきりとした意見を発言できた。」と児童が記述していることから、学校司書との協働的な指導が効果的に働いたのではないかと考える。

(2) 今後の課題

本研究を通して、主体的な学びのための図書館連携教育についてどのような役割分担と連携が必要なのかがはっきりしてきた。小さな手立てを重ねるうちに、学級担任の学校図書館に対する認識が変わってきたように思う。特に、学級担任と児童が4月に図書館に出かけて活動することで、学級担任に学校司書の専門性について知らせる機会となる。そうすると、その後の利用指導でも学級担任が専門的な説明の部分で学校司書にお願いする場面ができたり、教室まで学校司書に来てもらって、児童の調べ学習を手伝ってもらったりする場面があったりと、一つの小さな手立てが次の協働的な支援につながっていくのを感じた。

学校司書との協働的な学習支援が、児童の主体的な学びに重要な役割を果たすことが分かった本研究を生かして、より学校司書との連携を充実させていくことが今後の課題である。これからも、学校司書と学校図書館、図書情報館との効果的な連携の在り方を模索し、児童の自ら学ぶ力をはぐくんでいきたい。